

高千穂の夜神楽（概要）

冬の時期になると、多くの街は寒さに対する備えをしますが、高千穂の住民は、800年以上続く地元の神事、夜神楽の準備のさなかにあります。

夜神楽は、高千穂地域のおよそ 20 の集落において、11 月から 2 月の間に行われる舞踊劇の形の神事芸能です。夕暮れから明け方まで、神楽の舞手の奉仕者は、収穫に感謝し、来年の豊穡を祈願するために、その土地の氏神様（地元住民の土地を守る神）に三十三番の神楽で奉納します。

高千穂の人々にとっては、夜神楽は恵みに感謝を捧げ、人と神々が共に舞い踊り夜を明かす神聖なる儀式です。太鼓、鈴の音、歌を伴い、面をかぶった奉仕者は、降りてきたご神体そのものとなります。里人は、神聖な神庭で廻り踊り複雑な形に変化しながら迎え入れた様々な神話の神々と共に集い、鑑賞し、飲食し、歌舞します。この儀式の中では、観光で来た方も参列者となります。

この習慣は、地元の文化と深いつながりがあります。高千穂のそれぞれの集落には、衣装、飾りつけ、観客鑑賞心得だけでなく、独自の神楽があって少しずつ違いがあります。夜を通して行われる「高千穂夜神楽」は、1978 年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。